

## 平成24年第4回定例会（12月）一般質問

### (1) 町長のめざす「共生のまちづくり」とは

○ 議員 宮下 裕美子 通告書に従い一般質問を行います。最初は町長のめざす「共生のまちづくり」についてです。

今年10月、町長は3期目の所信表明で「『協働』をさらに越え『共生のまちづくり』を目指します。」と謳っています。「協働」は様々な場面で使われ「協働」が何を意味するのか、この言葉のイメージや概念は、社会全体で概ね共有できていると思います。

一方、「共生」については、まだ馴染みがありません。一部、福祉分野もしくは環境や生態分野で使われていますが、「まちづくり」という行政が関わる分野であまり目にすることはありませんでした。

それから「協働」を越えた先にある「共生」とは何か。町長の所信表明を聞いてから私なりに調べてみましたが、はっきりとしたイメージを掴めないまま今日に至っています。町民からも「『共生のまちづくり』って何だろう。よく分からない。」という声も寄せられています。そこで町長にお伺いします。町長の目指す「共生のまちづくり」とはどんなものなのでしょう。次の3点を含めて答弁願います。町民がイメージできる「共生のまちづくり」の具体的な姿。「共生」と「協働」の違い。「共生のまちづくり」において、町民はどのように関わればいいのか。これらについて答弁願います。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 お答えさせていただきます。私は所信表明で「3期目となるこれからの4年間は、私の集大成とするべく『笑顔でつなげるまちづくり、優しさと思いやりで繋ぐ絆』をスローガンにして『協働』をさらに越え『共生のまちづくり』を目指します。」という発言をさせていただきました。

最初に「共生」というイメージで私が今まで感じていたことを言わせていただきますと、中和地区にある雪の聖母園そして藤の園と福祉施設が、中和という地域にあって地域と施設がお互いしっかり連携を取り合っていく、認め合っていくという穏やかな状況で、地域も施設があることで生き生き、そして施設も地域の皆さんに受け入れられていることで生き生き、これこそ「共生」の原点がここにあると感じてきたところです。今年3月いっぱいまで札比内小学校が閉校しましたが、16年に昭栄小学校、18年に中和小学校、知来乙小学校がそれぞれ閉校していく状況で、かつては地域指定の学ぶ小学校として地域が成り立っていた感覚でしたが、昭栄小学校は友朋の丘の授産施設、知来乙小学校は岩見沢幼稚園

の園外活動の拠点、中和小学校は雪の聖母園の授産施設としてそれぞれ活動しており、活動自体が学校がなくなった後も地域の皆さんの励みであり、そこで活躍する皆さんも地域の理解があってより伸び伸び過ごしている状況は、私たちがこれからまちづくりをしていく上で極めて重要なヒントになると考えていたところでありました。人口がどんどん減っていく中であって、障害者を含めた五つの福祉施設と二つの矯正施設があることは、決して他の町にあるような状況ではありませんでした。そして、先ほども言いました二授産施設それからもう一授産施設がありますが、そこで生産される納豆・食パン類は私たちの町の特産品としてしっかり作っていただけるということを理解いただき、納豆は月形刑務所、食パンは美唄駐屯地の隊員食堂での消費につながることで、授産施設を運営していく上で極めて有効なカタチで物事が進んだ実例であります。そんな意味では行政といわゆる組織それから施設だけでなくうちの町にある施設、行政、地域全てがお互いの存在を認め合い感謝した中で共に生き生きと生きていく姿が「共生のまちづくり」であると感じたところでもあります。雪の聖母園が月形町でグループホームを立ち上げました。当初、グループホームを立ち上げてそこに住む人たちが町に出てきた時、月形町民は遠巻きに見守っていたというのが実際であります。自然体としてしっかり付き合いきれるところまでいっていなかったノーマライゼーションという言葉であります。まさしく健常者と障害を持った人が同じ社会の中で暮らしていくノーマライゼーションという言葉で理解しても感情としてそのことがしっかり理解できていなかったというのが実際ではなかったかと思えます。現在、月形町の市街に住む人たちは障害者の人たちがグループホームで生活していることが、私たちの町に住む人たちを構成してくれているメンバーであるということで、全くそこに驚異も何もなく自然体として付き合い合っているノーマライゼーションを越えた意識にあると思っております。これが私の考える「共生のまちづくり」であります。「協働」という言葉は私の思い違いではないと思えますが、かつて地方分権という平成のはじめからなってきたところで、いわゆる「地方に分権を渡して下さい。そして地方独特の自治活動・行政活動をして行きましょう。」というときに、それについては行政だけが主体ではなくそこに町民が一緒になってまちづくりをしていくという意味合いが強かったと思えます。これは行政としてやるところのまちづくりに町民の皆さんにも参加してもらって共に働き合うという「協働」の意味合いが強かったと思えますが、行政だけではなく組織・団体が横にもつながり、お互いが認め合って生き生きと生きていくという意味での「共生」と「協働」の違いであると考えております。先ほど質問がありました「共生のまちづくり」について、町民はどのように関わるのかということですが、私が所信表明したときにこのようなことも言わせてもらっています。「小さな町だからこそできること。一人ひとりが何をしたい

か、何を求めるか、行政と町民が理解し合い、協力し創りあげるまちづくりに向け邁進します。安心と安全が不可欠な時代『命と絆』が日本中で見つめられる今だからこそ、さらなる地域コミュニティの発展を目指すとともに、五つの社会福祉と二つの矯正施設を有する我が町の特徴を最大限に活かしたまちづくりに取り組みます。」まさしく地域コミュニティが私たちの町には根強くしっかり張っていますが、それを今一度見つめ直していくことが必要であると思っているところでもあります。私は社会を構成する最小の単位は家族であると考えております。現在、月形町においても核家族化が進む中で、お年寄りの持っている知恵がしっかり生きていくというところでは、家庭環境の中だけでは作り得ない、ただ地域コミュニティ単位で考えたときにはお年寄りが居る、若い人が居る、働き世代が居る、子ども達が居る状況で、それぞれ世代の中でしっかり受け継いでいくものがあると考えたとき、今こそ地域コミュニティを充実していくことがまちづくりにつながると思っており、それが「共生のまちづくり」という意味での町民の皆様にもしっかり意識して関わっていただきたいと思っております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今、町長から「共生」の概念と中和地区・札比内地区・各施設との関わりなど説明され、町長が考えている「共生のまちづくり」についてはある程度イメージできましたが、私が思うところ今の説明を聞いてうちの町はすでに「共生」のまちがある程度かたち創られていて、あえてそれを目指す段階よりすでに醸成されているのではないかと感じます。その中で地域コミュニティの発展が町民が参加し関わることでであると説明していましたが、それは確かにそのような感じであると思いますが、そこで行政は何をやっていくのかということが重要になってくると思います。町長が最初に言われた「共生のまちづくり」においてグループホームや中和地区の雪の聖母園・藤の園などと一体的になった地域づくりについて言うと、どちらかと言えばそのような施設が主導しながらあるいは地域がそこにきちんと関わりながら育ていったということで、行政が関わらなくても地域や施設が積極的に関わることによりそのようなまちづくりがなされていったと考えているので、今回「共生のまちづくり」をあえて町長が所信表明で発言するという事は、行政はその中にどのように関わって行くのかということをもう少し教えていただきたいと思っております。それが次の質問になるのですが「協働」ということに関して言うと「協働」を先ほど行政がやっていることに対して町民が参加するイメージであるということですが、主体は色々なところがなって企画の段階から一緒に考えてやっていくことが「協働」であると思っていて、それは「共生のまちづくり」の手段として「協働」ができるのではないかと思います。「『協働』をさらに越え『共生のまちづくり』を目指します。」という表

現に違和感を覚えたのはそのところで、町長が「共生のまちづくり」を目指すのであればそれはそこに置きながら行政としては「協働」をさらに進めてそこに関わるというイメージであると思いますが、先ほどの中には行政の関わり方がちょっとなかったのも、どんなかたちで行政がやっていくのか。町長としては町全体の目指すべき姿を示すのも当然ですが、現実的には行政職員や行政システムを使ってそれらをサポートしていくので、その説明をぜひともお願いしたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 自然発生的と言うか施設や地域住民の努力によりそのことが培われてきたことで、行政が関与していないのではないかとということですが、中和における状況はまさしくその状況であり、長い歴史の中で地域と施設が関わって出てきたものであると思っております。それ以降、小学校が閉校になった後の施設には行政がしっかり関わってそれぞれの運用についても提案いただき決定したということでは、行政が全て関わったものです。月形刑務所における納豆の使用や美唄駐屯地におけるパンの利用についても行政が関わって行われたと思っております。最近の友朋祭・雪の聖母園祭は極めて盛況になっていますし、雪の聖母園の総括管理者は「来たときこれほど大きなお祭りではなかったのに、賑わいをもった大変いいお祭りになりました。」と話されておりました。これらについても当初は協賛金交付だけでしたが、私が町長になってからは「役場職員も人員として参加すべきではないのか。」ということで、親睦会を2つに分けてそれぞれ友朋の丘と雪の聖母園に入っていく状況で、しっかり祭りが盛況になったと理解しております。行政がしっかり関わってそのようなことが行われていると考えております。今、月形学園において学園生に対して美唄駐屯地の司令や岩見沢警察署所長が講話を行っていますが、これは前々学園長が私たちの町で行われる消防演習や新年交礼会等々で、いわゆる駐屯地の司令や岩見沢警察署長に学園生に対しての講話要請をするということのできたことであります。多くのことが行政との関わりでおこなってきたことで、今までにないかたちでできていると考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今、町長は行政が関わってそのようなことができたということで、その点は納得できることですので進められていると思います。先ほども言ったように「共生のまちづくり」について「共生」はうちの町ではかなり昔から色々なかたちでやっていて、例えば福祉施設が誘致されていることや矯正施設が誘致されてから今までの間に地域の方々とごく自然なかたちで関わり合いやグループホームなど町内あちこちにできていて集合の場になっていますので、ある程度醸成されていると思います。更なるあえて「共生の

まちづくり」を目指すところで行政がどのように関わるかというところが見えてこないのです。ちょっと質問が悪かったので少し変えます。先ほど町民一人ひとりが関わるには地域コミュニティの発展がこれからの課題であるということで、地域コミュニティ発展のため行政は「共生のまちづくり」を目指すために具体的にどのようにやっていくつもりなのか、もう一度、確認させてください。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 「共生のまちづくり」がすでに醸成されているという宮下議員の発言であると思います。私はこの数年間で少しずつ定着してきたと考えており、それが共に生きがいを持って生き生きとふれ合っていくシステムを創り上げていくことが重要であると思っております。そこで行政がどのように関わっていくのかということは、一つ一つのところで提案してやっていくべきことで、概念としての「共生」と政治手法として施策としてどのようにしていくのかということは、それぞれの施策でしっかり意識しながらやって行きたいと考えたところでした。地域コミュニティについてですが、今回の災害などで地域コミュニティがいかに大事であるかということを感じたところなので、防災士についても地域の皆様にきちんと資格取得していただき活動してほしいと思っております。先ほども申し上げたお年寄りの智恵が子育ての世代に情報が伝わっていかないということを含めて、しっかりそれを施策としてやっていきたいという思いがあって、地域コミュニティを充実させていくと発言させていただきました。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今のことは概念のことであるので、町長に色々と答えていただきましたので、それらが含まれた中で今後の施策が実行されることを期待したいと思います。分かりにくいものなので、折に触れイメージや目指すべきところを町民の方々にも示していただき、「共生のまちづくり」と言葉だけでは伝わりにくいし、耳馴染みの薄い言葉であると思いますので、施策に折り込むときには具体策や概念を、色々な場面で伝えていただきながら進めていただきたいと思います。